



# 株式会社ラック

## 2022 年 3 月期第 2 四半期決算説明会 説明内容

本資料は、2021 年 11 月 11 日に実施した機関投資家・証券アナリスト向け決算説明会において、当社代表取締役社長の西本が説明した内容（一部要約）です。



## 株式会社ラック

# 2022年3月期 第2四半期決算説明会資料

2021年11月11日

社長の西本です。

本日は大変お忙しいなか、説明会にご参加いただき誠にありがとうございます。

ご心配をお掛けしております、日本貿易保険との訴訟関連につきましては、すでに開示しておりますとおり、当社は先方からの請求は根拠がないものと考えております。当社としましては先般、11月5日に反訴の提起をしております、当社の正当性を裁判手続で主張してまいる所存です。

また、本件での、今期業績には影響がないものと判断しておりますが、開示すべき事項が発生した際は、ただちに公表してまいります。引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

## 2022年3月期 第2四半期決算概要

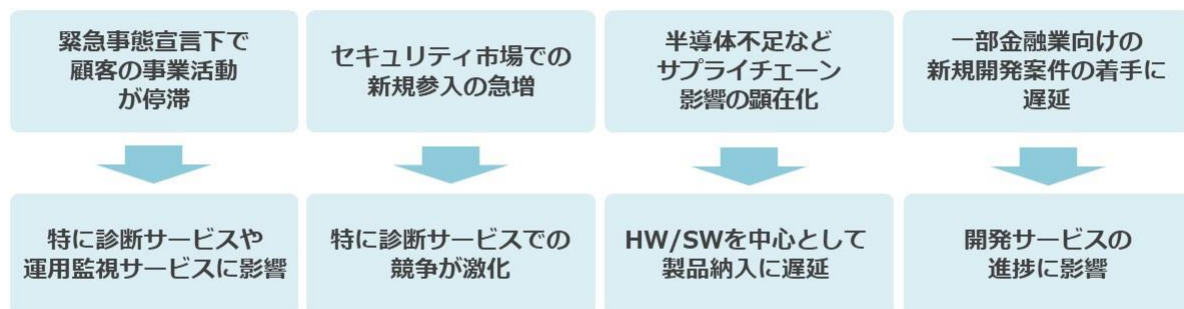
それでは第2四半期の決算概要についてご説明します。

### 環境認識



#### 全体としてIT投資は堅調に推移し、セキュリティ対策投資も拡大基調

一方で



緊急事態宣言の解除により企業活動が再開し、第3四半期以降は回復を見込むが、  
コロナ禍で半導体だけではなく様々なサプライチェーンでの影響を引きずる懸念は払拭できない  
競合には低価格サービスの子会社集約、サービスデジタル化、戦略的提携で対抗

3

© 2021 LAC Co., Ltd.

まずは環境認識でございます。

全体として、IT 投資は堅調に推移し、セキュリティ対策投資も拡大基調で推移しております。一方で、緊急事態宣言が非常に長期化し、顧客の事業活動が停滞したことで、診断サービスや監視サービスの受注活動に影響を受けました。また、セキュリティ市場では特に診断サービスにおいて新規参入が急増しており、競争も激化する状況となっております。

さらに、半導体不足などサプライチェーンでの滞留が世界的な問題となっております。当社ビジネスにおいても HW/SW（ハードウェア・ソフトウェア）を中心に製品の納入に遅延が生じております。今後、さらなる影響を受ける可能性も否定できず、慎重に見極めております。また、SI 事業の重要顧客であるメガバンクが障害多発を受けて、当社の開発サービスの進捗に影響を受けております。

10 月からの緊急事態宣言の全面解除で企業活動が戻り、これ以降、市況回復を見込んではいませんが、先ほど、ご説明した世界的なサプライチェーン影響を引きずる懸念は依然、払拭できない状況も続いております。

一方、競合対策としては、当社のセキュリティ事業における取り組みにおいて、低価格サービスの子会社への集約、サービスのデジタル化の推進、他社との戦略的提携などの手を打っています。

## 連結決算ハイライト（前年同期比）



### セキュリティ事業の拡大により増収 事業拡大に向けた販売体制の強化等により営業利益は減益 経常利益は持分法投資利益の計上、四半期純利益は子会社株式売却益の計上で増益

（百万円）

| 科目               | '21年3月期<br>2Q累計実績 | '22年3月期<br>2Q累計実績 | 前年同期比 |        |
|------------------|-------------------|-------------------|-------|--------|
|                  |                   |                   | 増減額   | 増減率(%) |
| 売上高              | 19,504            | 19,668            | +163  | +0.8   |
| 営業利益             | 11                | △45               | △56   | -      |
| 営業利益率%           | 0.1               | △0.2              | △0.3p | -      |
| 経常利益             | 2                 | 15                | +13   | +604.4 |
| 経常利益率%           | 0.0               | 0.1               | +0.1p | -      |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 43                | 126               | +82   | +191.0 |

（注）1. 子会社株式売却益219百万円を特別利益として計上しています。

2. 当社グループの事業の特徴として、特にセキュリティ事業の売上の計上が第4 四半期連結会計期間に著しく偏り、第2 四半期連結累計期間の業績は低い水準となる傾向があります。

4

© 2021 LAC Co., Ltd.

続きまして、決算ハイライトに移ります。

売上高は前年同期から 0.8%と微増となりましたが、営業利益は残念ながら減益となりました。緊急事態が長期化する厳しい事業環境のなか、セキュリティ事業は拡大したものの、SI 事業において、前期末で終了した大型案件の次の受注が遅れていること、あてにしていたメガバンクの新規開発案件のスタートが遅延していることなどにより、減収減益となったことが大きく影響しております。

経常利益は、関係会社の KDDI デジタルセキュリティによる持分法投資利益の計上により、また四半期純利益は、子会社のアイ・ネット・リリー・コーポレーションの株式譲渡で特別利益を計上したことから、大幅な増益となっております。

## セグメント別業績（前年同期比）



セキュリティ事業は大幅に増収・増益、SI事業は減収・減益  
 全社共通費用は抑制傾向で進捗

（百万円）

| 売上高                      | '21年3月期<br>2Q累計実績 | '22年3月期<br>2Q累計実績 | 前年同期比  |        |
|--------------------------|-------------------|-------------------|--------|--------|
|                          |                   |                   | 増減額    | 増減率(%) |
| セキュリティソリューションサービス（SSS）事業 | 7,667             | 8,676             | +1,008 | +13.2  |
| システムインテグレーションサービス（SIS）事業 | 11,836            | 10,991            | △844   | △7.1   |
| 合計                       | 19,504            | 19,668            | +163   | +0.8   |

| セグメント利益                  | '21年3月期<br>2Q累計実績 | '22年3月期<br>2Q累計実績 | 前年同期比 |        |
|--------------------------|-------------------|-------------------|-------|--------|
|                          |                   |                   | 増減額   | 増減率(%) |
| セキュリティソリューションサービス（SSS）事業 | 492               | 591               | +99   | +20.1  |
| システムインテグレーションサービス（SIS）事業 | 1,396             | 1,201             | △194  | △13.9  |
| 合計                       | 1,888             | 1,793             | △95   | △5.1   |

|        |        |        |     |   |
|--------|--------|--------|-----|---|
| 全社共通費用 | △1,877 | △1,839 | +38 | - |
|--------|--------|--------|-----|---|

（注）セグメント利益は、全社共通費用を組み入れる前の、事業にかかる販売費および管理費を含めた利益です。

5

© 2021 LAC Co., Ltd.

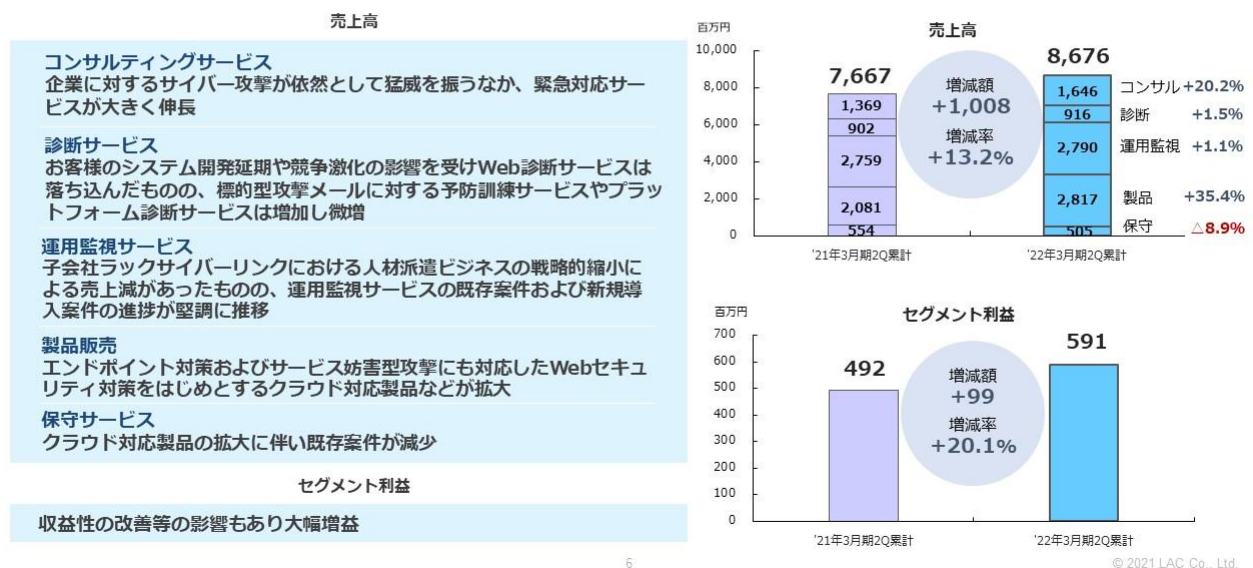
セグメント別でみてみますと、先ほどご説明したとおり、セキュリティ事業は、大幅な増収・増益、SI事業は減収・減益となり、SI事業が前年同期から落ち込んだことが、利益を押し下げる要因となっております。

全社共通費用は、テレワーク中心の勤務形態を進めていることもあり抑制傾向で進捗しております。

## セグメント別業績ポイント セキュリティソリューションサービス（SSS）事業



## 製品販売、コンサルティングがけん引し大きく増収、収益性改善等もあり大幅増益



6

次にセキュリティ事業の状況についてご説明いたします。

コンサルティングは、サイバー攻撃に対する緊急対応サービスが前期から引き続き高水準で推移しており、大きく拡大しております。

診断サービスは、冒頭でご説明したとおり、緊急事態宣言や競争激化の影響を受け、特に診断サービスの屋台骨の Web 診断サービスは落ち込みましたが、標的型メール訓練サービスや、プラットフォーム診断サービスは拡大し、全体として微増に留まっております。

運用監視サービスは、連結対象となっているラックサイバーリンクのなかの派遣事業などの非中核ビジネスを戦略的に縮小した結果、運用監視サービス全体としては、微増となっておりますが、主軸の運用監視サービスや新規案件は堅調に推移しており、ラックサイバーリンク関係を除いた運用監視サービス全体では 3.8%の増収となっております。

製品販売は、エンドポイント製品の CrowdStrike が大きく伸長していることもあり、大幅に拡大しました。

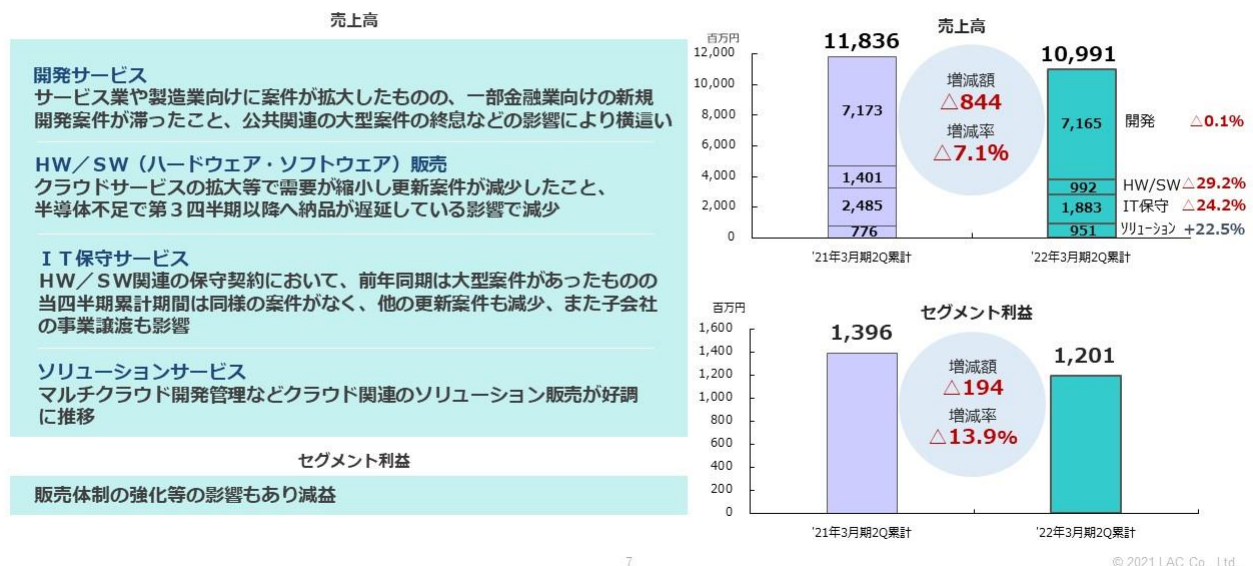
保守サービスの減少は、セキュリティ製品がクラウド対応製品へと移り変わっており、クラウド対応製品は製品販売側に計上されているためです。従来の保守サービスという観点では減少しております。

セグメント利益としましては、売上高の拡大により大幅な増益となっております。

## セグメント別業績ポイント システムインテグレーションサービス（S I S）事業



### HW/SW販売とIT保守が低調に推移し減収、販売体制の強化等もあり減益



次に SI 事業です。

SI 事業は、数字的には、HW/SW、IT 保守が今期は低調に推移したことで減収減益となっております。

屋台骨である開発サービスは、サービス業や製造業向けの案件が大きく拡大しました。しかしながら、先ほど申し上げたとおりメガバンクでの新規開発案件の着手が遅れたことや、公共関連で大型案件が前期で終息したこと、

また別途狙っていた新規大型案件が残念ながら獲得できなかったこともあり、全体として横這いとなりました。

HW/SW は、需要が縮小傾向にあります。それ以上に半導体不足により納品が第 3 四半期以降に遅延した影響により、大幅な減少となりました。

IT 保守も大幅な減少となりました。こちらは前年に大型案件があった反動減と、先ほどお話ししましたが IT 保守に連結をしていた子会社アイネット・リリー・コーポレーションが株式譲渡により、第 2 四半期以降、抜けていることが大きく影響しております。譲渡の影響ですが、この上期で、売上高 約 5 億円、利益額 約 1 億円のマイナスとなっています。

ソリューションは、マルチクラウド向けの開発管理やクラウド関連の販売が好調に推移したことで、大きく拡大しております。

セグメント利益は、大きく減益となりましたが、これは主に、開発サービスにおいて、販売費を増やし積極的に手を打っていたものの、案件の掘り起こしに時間が掛かり、売上拡大が上期に思ったようにできなかったことが影響しています。

## 連結貸借対照表ハイライト（前期末比）



### 事業運営上の必要資金を継続保持しつつ、安定した財務基盤を維持

(百万円)

| 科目            | '21年3月期末      | '22年3月期<br>2Q末 | 前期末比<br>増減    | 増減ポイント                           |
|---------------|---------------|----------------|---------------|----------------------------------|
| <b>資産合計</b>   | <b>24,626</b> | <b>22,373</b>  | <b>△2,252</b> | <b>資産</b>                        |
| 流動資産          | 16,349        | 14,007         | △2,341        | <b>【流動資産】</b>                    |
| 固定資産          | 8,277         | 8,366          | +88           | 受取手形、売掛金及び契約資産の減少 △2,364         |
| <b>負債合計</b>   | <b>12,965</b> | <b>10,518</b>  | <b>△2,447</b> | 現金及び預金の減少 △533                   |
| 流動負債          | 10,032        | 8,202          | △1,830        | <b>【固定資産】</b>                    |
| 固定負債          | 2,933         | 2,316          | △617          | 投資その他の資産「その他」に含まれる投資有価証券の増加 +606 |
| <b>純資産合計</b>  | <b>11,661</b> | <b>11,855</b>  | <b>+194</b>   | <b>負債</b>                        |
| 現預金           | 6,367         | 5,833          | △533          | <b>【流動負債】</b>                    |
| 有利子負債         | 4,843         | 3,795          | △1,047        | その他に含まれる未払金の減少 △602              |
| <b>自己資本比率</b> | <b>47.3%</b>  | <b>53.0%</b>   | <b>+5.6p</b>  | 1年内返済予定の長期借入金の減少 △366            |
|               |               |                |               | <b>【固定負債】</b>                    |
|               |               |                |               | 長期借入金の減少 △666                    |
|               |               |                |               | <b>純資産</b>                       |
|               |               |                |               | <b>【純資産】</b>                     |
|               |               |                |               | 期末配当などによる利益剰余金の減少 △210           |
|               |               |                |               | その他有価証券評価差額金の増加 +408             |

8

© 2021 LAC Co., Ltd.

続いて、財政状況です。

売掛金や借入金の減少などにより、資産、負債ともに減少しています。長期借入金の返済を進めながら、引き続き十分な手元資金を確保しております。

自己資本比率は、期末配当の支払いがありましたが、サイバートラスト社の株式上場に伴う評価差額金の計上により、前期末より向上しており、安定した財務基盤を維持しております。

## 連結キャッシュ・フロー計算書ハイライト



### 営業キャッシュ・フローは増加、フリーキャッシュ・フローも改善

(百万円)

| 科目                   | '21年3月期<br>2Q実績 | '22年3月期<br>2Q実績 | 発生ポイント                                                                                                               |
|----------------------|-----------------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー     | 751             | 1,095           | <b>営業キャッシュ・フロー</b><br>税金等調整前四半期純利益 234<br>減価償却費 476<br>のれん償却額 36<br>売上債権の減少額 2,217<br>棚卸資産の増加額 △849<br>法人税等の支払額 △427 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー     | △985            | △234            | <b>投資キャッシュ・フロー</b><br>連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入 242<br>有形固定資産の取得による支出 △474<br>ソフトウェアの取得による支出 △141                     |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー     | 1,661           | △1,390          | <b>財務キャッシュ・フロー</b><br>長期借入金の返済による支出 △1,032<br>配当金の支払額 △337                                                           |
| フリーキャッシュ・フロー         | △234            | 860             |                                                                                                                      |
| 現金および現金同等物の増減額（△は減少） | 1,429           | △533            |                                                                                                                      |
| 現金および現金同等物期首残高       | 4,653           | 6,367           |                                                                                                                      |
| 現金および現金同等物期末残高       | 6,083           | 5,833           |                                                                                                                      |

9

© 2021 LAC Co., Ltd.

次に、キャッシュ・フローの状況です。

営業キャッシュ・フローは 10 億円へと増加しました。社内 IT 投資を継続推進しながらも、フリーキャッシュ・フローは 8 億円のプラスへと転換しております。

以上が、上期の業績と財務のご説明となります。

## 主な取り組み状況

次に主な取り組み状況についてご説明いたします。

### 主な取り組み状況 セキュリティ事業



#### エンドポイントセキュリティビジネスの拡大

EDR製品CrowdStrikeの拡販推進  
運用サービスの拡大：三菱電機インフォメーションネットワーク(株)と協業推進



#### 運用監視サービス事業の強化

クラウドを対象とした運用監視ラインアップの拡充  
(Prisma Accessの提供開始)

処理速度・拡張性が向上した新型「LAC Falcon®」の運用開始



#### デジタルイノベーションによる事業推進

診断サービス×デジタル化  
(株)エーアイセキュリティラボと提携し新ビジネスモデル構築を推進  
クラウド診断ツール「AeyeScan」にラックの知見を組み入れデジタル化を狙う



教育サービス×デジタル化  
オンラインアカデミーの講座を「ドコモgacco」と連携し提供開始  
さらに他のプラットフォームの活用推進予定



11

© 2021 LAC Co., Ltd.

セキュリティ事業においては、ますます凶悪化するサイバー攻撃に非常に有効なエンドポイントビジネスの拡大に向け、当社緊急対応サービスでも信頼性が確認されている CrowdStrike の拡販や、その運用サービスにおいて、三菱インフォメーションネットワーク社との協業を進めました。

次に、当社の核となる運用監視サービスの強化ですが、顧客のクラウド活用が急速に浸透するなか、クラウドを対象とした運用監視ラインアップの拡充と、2012 年に自社開発した監視のサービス基盤であり、分析エンジンである、LAC Falcon の第二世代型の運用を開始するなど、基盤強化に取り組みました。

そして、中期経営計画の成長戦略、「適応力」の一環で進めているのが、デジタルイノベーション事業の推進です。当社の知見を、AI などを用いてデジタル化することで、サービスの高度化を目指しています。

まずは診断サービスと教育サービスでの取り組みを開始しました。診断サービスは、スタートアップのイーアイセキュリティラボ社が開発し提供しているクラウド型診断ツール「AeyeScan（イーアイスキャン）」にラックの知見を組み入れることで、デジタル化していくことをまずは目指しております。

## 主な取り組み状況 S I 事業



### クラウド開発・運用ソリューションの製品拡充

HashiCorp社製品を拡充、最高ランクのリセラーに認定され販促推進

個別のクラウド環境で構築したアプリの自動相互接続が可能とするConsul  
コンテナ等の実行環境を統一し大規模環境への展開を支援するNomad



### SI×セキュリティによる事業の推進

金融犯罪対策センターを新設（5月1日）

金融犯罪対策に有効なソリューション導入支援、コンサルティング等を推進  
大手金融機関でのシステム開発と捜査機関とともに犯罪対策を行ってきた知見を融合



金融犯罪対策センター  
FC2 Financial Crime Center

### クラウド環境でのセキュリティ関連ソリューションの製品拡充・導入推進

大企業のIT衛生管理を実現する統制プラットフォームTanium  
クラウドセキュリティ統制支援サービスby Prisma®Cloud



### DX支援ソリューションのサービス拡充

Oracle社のクラウドサービスの導入支援およびデータベース移行サービスを開始

12

© 2021 LAC Co., Ltd.

次に、SI 事業においては、主にソリューション関係のラインアップ拡充を進めました。

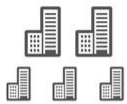
クラウド開発・運用ソリューションでは、HashiCorp 社のこれまでのヴォルトやテラフォームといった製品に加え、Consul（コンサル）、Nomad（ノマド）といった製品をラインアップとして拡充しています。当社は HashiCorp 社から最高ランクのリセラーに認定されており、更なる拡販を進めてまいります。

また、セキュリティと連携した取り組みもより深めています。大手金融機関でのシステム開発をしてきた知見と、セキュリティの知見、ならびに金融犯罪に対する知見を活かし、金融へのセキュリティソリューション導入支援などを提供する「金融犯罪対策センター」を新設いたしました。加えて、クラウド環境におけるセキュリティ関連ソリューションの製品拡充や導入も進めています。

さらに、デジタルトランスフォーメーションを支援するサービスとして、Oracle 社のクラウドサービスの導入支援やデータ移行サービスの提供を開始しました。

このような新しい取り組みは、単にこの取り組みだけの収益拡大を狙うのではなく、その後に続く SI 事業の掘り起こし、開発サービスの掘り起こしといったものを狙うためも含めて行っている手段となります。

## 主な取り組み状況 共通



### グループ会社の選択と集中を推進

#### アジアリンクをラックサイバーリンクに社名変更（4月1日）

ラックの社名を冠し、中堅・中小企業を対象としたセキュリティビジネス拡大を狙う  
非中核事業（人材派遣ビジネス）を戦略的に縮小



#### 子会社等の拠点を集約（5月完了）

ラックサイバーリンク、ソフトウェアサービス、ジャパンカレント拠点を平河町・東陽町に集約  
（費用削減効果見込み：年間1.4億円）

#### アイ・ネット・リリー・コーポレーションの株式を譲渡（6月28日）

当社ビジネスとのシナジーを勘案して他社へ事業譲渡（特別利益計上：2.19億円）



### アフターコロナ時代に向けた社内DXの推進

#### 仮想オフィス「oVice※（オヴィス）」を活用したコミュニケーションの活性化

※oVice株式会社が提供するクラウドサービス

#### 今後の成長を支える新基幹システムの継続開発

（運用開始予定：2024年3月期中）



13

© 2021 LAC Co., Ltd.

続いて、全社共通の取り組みです。

先ほどから触れてまいりましたが、これまでグループ子会社の選択と集中を進めてきました。

そのひとつとして、4月1日にアジアリンクを「ラックサイバーリンク」と社名変更しました。すでに SCUVA（スキューバ）というラックのノウハウを活用しながら低価格帯の診断サービスを提供していますが、ラックのブランドを活用し、中堅・中小企業向けを対象としたセキュリティビジネスの拡大を狙ってまいります。このような観点で、ラックサイバーリンクの非中核ビジネスの戦略的縮小も進めました。

次に、都内にある子会社の拠点集約が、5月をもって完了いたしました。これで年間の費用削減効果は1億4000万円程度を見込んでおります。

また、業績の冒頭でもご説明しましたとおり、当社ビジネスとのシナジーを勘案してアイ・ネット・リリー社を他社へ事業譲渡しました。特別利益として、約2億円計上していることも先ほどご説明したとおりです。

そして、アフターコロナ時代に向けて、社内のデジタルトランスフォーメーションを引き続き積極的に推進しています。

すでに導入している Office 365 だけではなく、仮想オフィスのなかでコミュニケーションを取ることができる、「oVice（オヴィス）」の活用等も進めました。社内では oVice を活用した様々なイベントを実施しており、テレワークで希薄化している社員の社内コミュニケーションの活性化に取り組んでいます。

新基幹システムについては、今後の成長を支える経営のデジタルトランスフォーメーションの根幹となるものであり、見直しを掛けながら、開発を進めています。

## 2022年3月期 連結業績予想 (2021年5月12日発表から変更ありません)

最後に通期業績予想についてご説明いたします。

### 通期予想について



#### セキュリティ事業

第3四半期以降  
診断サービスなど受注が拡大  
  
製品販売の拡大とあわせ  
クラウド等のセキュリティ対策需要の  
取り込むを狙う

#### SI事業

HW/SWは第3四半期での納品を見込む  
  
金融系開発サービス滞留に再拡大の懸念はあるが  
金融関係の独自ソリューションを  
トリガーとした展開を狙う

子会社の事業譲渡の影響※とあわせてSI事業の業績に弱さはあるものの、  
第4四半期におけるセキュリティ事業の拡大や  
コロナ下での働き方による経費抑制等を踏まえ、現時点で通期予想に変更なし

※第2四半期以降の通期予想に対する影響額 売上高：△約870百万円 営業利益：△約50百万円

15

© 2021 LAC Co., Ltd.

セキュリティ事業においては、第3四半期以降は、診断サービスなどの受注が拡大してきています。また、製品販売は好調に推移しており、運用監視サービスを含めたセキュリティ対策需要の取り込みを狙ってまいります。

また、SI事業については、HW/SWに関しては、遅延が生じていましたが、今のところ、第3四半期での納品を見込んでおります。金融系開発サービスで滞留が再拡大する懸念はありますが、金融犯罪対策センターにおけるAIを活用した不正検知ソリューションなどの当社独自ソリューションの展開でカバーしていくことを狙っています。

これらを踏まえ、事業譲渡の影響などもあり SI 事業の業績の弱さはありますが、第 4 四半期にかけてセキュリティ事業の拡大が見込まれていることや、経費抑制等も進めていることから、現時点での通期予想の変更はございません。



私からの説明は以上となります。ありがとうございました。

以上